



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151 (代表) いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

超高齢社会と口腔がん治療

口腔腫瘍外科 科長 嶋根 俊和

ひと昔前は高齢化社会と言われていましたが、あつという間に日本は高齢社会を飛び越え超高齢社会といわれる世の中になってきました。社会でも様々な問題が指摘されていますが、医療現場でも様々な問題が浮き彫りになっています。

当科では口腔がんの診療を行っています。高齢の患者さんが一段と増加しています。口腔がん患者さんが増加しているのも高齢化の影響があるのだなあと実感しているところであります。その中でも特に80歳以上の患者さんが増加していますが、80歳以上といっても元気な患者さんもいればそうでない場合もあり治療法などに苦労すること度々あります。

治療を行うにあたっては、患者さんご本人の全身状態、日常生活の制限の程度や心臓疾患、肺疾患などの合併症を判断しますが、その他にも認知症の問題、入院、手術を行った場合の退行変化、予期せぬ合併症など様々な問題を予測しなければなりません。臨床経験から治療前に「この患者さんは手術をすると何か起きそうな感じがする。」など雰囲気はわかりますが明確な指標はないため、患者さん、ご家族には十分な説明と同意が必要だと改めて感じております。

一方、患者さんの環境も変化してきております。一人暮らしの高齢患者さんも増加し、手術となってもご本人のお子さんは遠方で家庭があるからこられない場合やご兄弟がいるがやはり高齢でこられないなど様々な場面に遭遇します。

また、がん治療は手術して終わりではなく、その後も長期に再発がないかどうか経過観察が必要となります。そのためには通院が必要となるので

すが、高齢の患者さんに関しては自動車での通院、電車での通院など医療者側だけでは解決できないことが多数存在しています。

患者さん側、医療者側で解決していかねばならない問題もありますが、社会が介入していかないと改善できない問題がたくさん存在しています。社会も行政も改善の方向を向いてはいますが高齢化率に追いつけない状況だと思われま

す。高齢化の進行は待つてはくれません。口腔がん治療でも医療者側とご本人だけではなく、家族、社会、行政などの十分な協力、理解が今後ますます必要となってくると思われます。

今後、社会、行政のシステムが改善し、より良い世の中になることを期待しております。



Performance States (全身状態の評価の指標)

- 0 無症状で社会活動ができ、制限をうけることなく、発病前と同等にふるまえる。
- 1 軽度の症状があり、肉体的労働は制限を受けるが、歩行、軽労働や座業はできる。例えば軽い家事、事務など。
- 2 歩行や身の回りのことはできるが、時に少し介助があることもある。軽労働はできないが、日中の50%以上は起居している。
- 3 身の回りにある程度のことはできるが、しばしば介助がいり、日中の50%以上は就床している。
- 4 身の回りのこともできず、常に介助がいり、終日就床を必要としている。

口腔腫瘍外科(頭頸部腫瘍センター) 紹介

口腔腫瘍外科の診療が平成26年10月から開始され2年半が経過しようとしています。地域の先生方のご紹介もあり患者さんの数も次第に増加し、年間90例ほどの口腔がん患者さんの治療する状況になりました。新しい診療科ではありますが少しずつ地域に根付いてきたものと思います。

診療も軌道にのり安定した治療実績を残しております。患者さんの状況によってリスクの少ない患者さんは当院で入院、手術を行い、進行したがん患者さんや高齢者、放射線治療や化学療法の必要な患者さんは昭和大学病院頭頸部腫瘍センターと連携し、入院、手術を行っています。口腔腫瘍外科のスタッフは当院と昭和大学病院の両方で診療を行っており耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師、形成外科医師と合同で診療をしています。現在、頭頸部腫瘍センターは、口腔腫瘍外科医師4名、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師4名、形成外科医師1名、そして兼任医師によって診療を行っています。また口腔リハビリテーション科との連携も順調であり治療前の評価、装具の作成、手術後の顎義歯、リハビリテーションだけではなく、手術中に欠損部位の装具調節など患者さん重視の診療を行っています。

対象疾患は、口腔がん(舌がん、口底がん、頬粘膜がん、歯肉がん)、唾液腺がん、良性腫瘍を対象としています。悪性腫瘍に関しては、手術、放射線治療、化学療法、分子標的薬を組み合わせた治療を行い機能、形態の温存をめざした治療を行います。

手術においても耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師と一つのチームとして治療を行っているため鼻科内視鏡、ナビゲーションシステム、電子内視鏡(Narrow Band imaging搭載 オリンパス社製)、NIM(Nerve Integrity Monitoring System, メトロニック社製)など先端技術を使用し、他の病院の歯科口腔外科とは一味違った医療を提供してい

ます。今後もさらに発展させ患者さんにより良い医療を提供してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

口腔腫瘍外科 科長 嶋根 俊和



手術室での学生指導



手術室での研修歯科医師指導



鼻科内視鏡、口腔内視鏡を使用した口腔がん手術

歯科医師紹介:顎関節症患者さんは、まじめで一生懸命な方が多い

顎関節症治療科 兼任講師 渡邊 友希

この記事に目を向けていただき、ありがとうございます。ひょっとしたら顎に痛みが出たり、口が開かなくなった経験がおありでしょうか。

2010年に米国歯科研究学会(AADR)は顎関節症に関する基本声明を発表し、その中で「顎関節症患者の治療の第一選択は保存的で可逆的かつ証拠に基づく治療法とすることが強く薦められる。」と指摘しました。顎関節症の初期段階の治療としては、例えば歯を削るなど、元に戻せない治療を行ってはいけないということです。私の若かりし頃と今では、顎関節症に関する考え方や治療法は大きく変わりました。当科では常に最新の情報をアップデートして、専門治療を行っております。

治療の際、私が一番大事にしていることは徹底した病態説明です。今、何が起きているのかを患者さんご自身にご理解いただき、疾患と正しく向き合えるように専門知識を提供致します。治療の主役は患者さんです。病気を治すのは医者ではなく、患者さんご自身と思うからです。

次に症状管理の方法をご説明し、患者さんのセルフケアの向上をサポートします。顎にとって良くない癖があるようでしたら習慣を是正し、行動変容を目指します。たとえば高血圧と言われたら、いきなりお薬、ではなく食生活や運動など生活習慣を見直しませんでしょうか。顎関節症も同じです。生活習慣を変えること、ご自分と向き合う作業は地味で、時に苦痛を伴うかもしれませんが、全力でサポート致します。大げさに聞こえるかもしれませんが、習慣が変わると今後が変わります。再発も少なく、あるいは軽くすみます。

必要に応じたプロフェッショナルケアとして、お薬の処方や、マウスピースの作製、注射などがありますが、これらはご相談の上で進めてまいります。「インフォームドコンセント: informed consent)(医師が病状や治療方針を説明し、患者さんの同意を得ること)」から、最近はさらなる考え方として

「シェアードディシジョンメイキング: Shared decision making(治療方針の決定の際、医師が選択肢をあげて患者さんに治療を選んでもらう手法)」が提唱されています。可能な限り遵守して、患者さんと一緒に歩んでまいりたいと思います。

つくづく思うのですが、顎関節症は頑張り屋さんの疾患です。まじめで、一生懸命なあまり、身体に症状が出ている方が多いようです。また心理や社会的な背景が影響していることも多いと感じます。今後は心理学や脳科学を学び、さらに病態を解明してまいります所存です。

自分が顎関節症かどうかわからない方も、またその他の口や顔の痛み全般に対応致します。どうぞ、お気軽にご相談ください。



写真研究発表(2016年日本顎関節学会)



顎関節症治療科スタッフ、研修医

第10回 昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会が行われました

昭和大学口腔ケアセンター長 弘中 祥司

平成29年2月1日(水)の午後8時より、昭和大学1号館7階講堂で第10回の昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会が開催されました。

記念すべき第10回の講師には本学医学部脳神経外科学講座 准教授 清水克悦 先生に「歯科・口腔外科に関連する脳神経外科疾患」という演題でお話いただきました。歯科で見られる三叉神経痛には、実は脳腫瘍が隠れている恐れがあるとの興味深い内容で、参加者一同感銘を受けました。今回の参加者は、これまでの最多で85名(歯科医師会38名・学内47名)で、質問もとても多かったです。

周術期講習会は、昭和大学口腔ケアセンター城南地域連携協議会を中核とした医科歯科連携

のチーム医療の促進を目指し、周術期口腔機能管理に係る地域連携に必要な知識の習得を目的とするため、これからも定期的に関催いたします。どうぞご参加下さい。

第11回昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会は平成29年10月18日(水)午後8時より昭和大学1号館 7階講堂で開催する予定です。また、詳細をご報告したいと思います。



部署紹介 事務課管理係

管理係長 恩田 武広

事務課管理係は地下1階にあり、現在、9名のスタッフがおります。管理係の主な業務は、施設(病院)の維持のための改修工事や修繕の手配に関する事、職員の労務・福利厚生に関する事、臨床研修歯科医師の募集・採用に関する事、診療で使用する医療機器や医薬品の購入に関する事、また、外部へ委託している清掃業務や駐車場の管理業務、医療材料の滅菌業務などの契約に関する事など多岐に渡っています。その他、ボランティアさんの募集や患者さんからのご意見、個人情報に関する相談窓口となっていますので、何かお困りのことがございましたら、管理係へご連絡いただければ対応させていただきます。

歯科病院は昭和52年の開院でもうすぐ40年が経過します。これからも、快適に診療していただける環境を提供できるよう心がけていきたいと思っております。



管理係 スタッフ

編集後記

アイスホッケー女子日本代表『スマイルジャパン』が、最終予選最終日にドイツに勝ちました。日本勢で平昌五輪出場を1番に決めましたね。うれしいニュースです。1年後となった平昌五輪が楽しみです。一緒に盛り上がっていきましょう。

長い冬もいよいよ終わりに近づいています。健康には十分気をつけてください。

(S.K)

